レアリア学習からみた外国語学習語彙の研究

堤　正典／小林　潔

この共同研究では、これまでのロシア語のレアリア（文化的背景などの知識）の教育についての研究する過程において、学習語彙の見直しをすることの必要性が浮かび上がり、ロシア語の学習語

彙の再検討を行っている。

ロシア教育科学省認定ロシア語試験(ＴＰＫИ)の学習語彙を基盤とするが、それは主としてロシアへの留学生が必要とする語彙を中心としているので、日本人がロシア語を使用するその他の様々な場面を想定して、ＴＰＫИ学習語彙に含まれない必要な語彙の洗い出しを行い、学習語彙リストの改訂を目標としている。

なお、ロシア語はロシア理解やロシアでの生活の手立てであることは事実であるし、ロシア語の用法はなによりロシア語話者のロシアでの生活の中で生まれるものである。ロシアという国自体も、内外の非ロシア語母語話者にさまざまなロシア語能力を求めていて、各種の試験やロシア語教材という形で提示している。かかる事情を念頭に、日本人学習者の視点から、ロシア本国のＴＰＫИ以外の試験や教材の検討も続けている。

また、語の多義性に注目し、日本語を母語とする学習者（日本人学習者）のためにロシア語学習語彙についての日本語との対照分析を行っている。多くの語は多義であり、その個々の意義（意味)はメタファーやメトニミーなどの関連をもち、ネットワークを形成すると考えられる。それぞれの語について、そのようなネットワークを明らかにすることが目的となる。例えば、ロシア語のчитать（読む）は、「＜本を＞読む（文字で記されたものを理解する)」「＜地図を＞読む（記号で記されたものを理解する」「＜詩を＞読む（＝朗読する)」といった多義性があり、これらは日本語の「読む」でも同様であるが、日本語にない語義として「説き聞かせる」「聴衆に聞かせる」がある。日本語「読む」にない語義には日本人学習者は注意を払う必要があるだろう。このような分析から多義ネットワークはコロケーションの違いとも関わりがある。多義ネットワーク分析をより多くの語について行っていく。

－◆－